

事業者アンケート

1) アンケート概要

アンケート概要を表 2-35 に、設問一覧を表 2-36 に示す。なお、使用したアンケート用紙は資料編に収録した。

アンケート調査は、令和 3 年 10 月に東郷町在所の 200 事業所を対象に実施し、そのうち 72 事業所から回答を得た（回収率 36.0%）。

表 2-35 アンケート概要（事業者アンケート）

項目	内容
アンケート発送日	令和 3 年 10 月 21 日
アンケート回収締切	令和 3 年 11 月 15 日
対象者数	200 事業所
発送数	200 通
回答数	72 通
回答率	36.0%

表 2-36 設問一覧（事業者アンケート）

分類	No	内容	回答方式
環境問題への取り組み	問 1	関心のある環境問題について	選択式(3 つまで)
	問 2	持続可能な開発目標 (SDGs) について	選択式(1 つだけ)
環境に配慮した行動及び活動	問 3	環境に配慮した日々の行動について	5 段階評価(14 項目)
	問 4	廃棄物排出量の把握について	選択式(1 つだけ)
	問 5	廃棄物排出量の変化について	選択式(1 つだけ)
	問 6	廃棄物排出に関する計画管理体制について	選択式(複数回答可)
	問 7	地域環境のための取り組みについて	選択式(複数回答可)
	問 8	地域の環境活動に取り組むことで得られた効果について	選択式(複数回答可)
	問 9	環境活動を行うにあたっての課題について	選択式(複数回答可)
	問 10	事業所における今後の環境活動について	選択式(1 つだけ)
事業所内での環境に関する従業員教育	問 11	環境保全に関する従業員教育について	選択式(1 つだけ)
東郷町で行うべき施策等	問 12	環境保全の推進に対する行政への要望について	選択式(複数回答可)
	問 13	環境に関する情報収集の方法について	選択式(2 つまで)
東郷町における事業活動様式	問 14	コロナ禍における事業活動様式の変化について	5 段階評価(10 項目)
		コロナ収束後の事業活動様式の維持意向	選択式(1 つだけ)
		自由欄	自由記述
その他		業種	選択式(20 択)
		事業所の主な形態	選択式(3 択)
		従業員数※パート、臨時含む	選択式(9 択)
		東郷町在所年数	選択式(6 択)
		所在地	選択式(18 択)

2) アンケート結果

(1) 問1 関心のある環境問題について

問1のアンケート内容を図2-31に、集計結果を表2-37に示す。

問1は、関心のある環境問題を19項目から3つまで選択する問いである。

最も回答が多かったのは「地球温暖化」で55.6%であり、最も回答が少なかったのは「大気汚染物質による酸性雨」、「自動車や工場などによる大気汚染」、「取り組む必要はない」で1.4%であった。

問1. 関心のある環境問題について	
貴事業所では、地球規模の環境問題についてどのような環境問題に取り組むべきと考えていますか。 次の中から、あてはまるものを <u>3つまで</u> 選んで番号に○印をつけてください。	
1	地球温暖化
2	オゾン層の破壊
3	世界的な森林の減少
4	世界で起きている砂漠化の進行
5	大気汚染物質による酸性雨
6	野生生物や希少な動植物の減少や絶滅
7	海洋および沿岸域の汚染
8	再生可能エネルギーの利用問題
9	里山の重要性と管理上の問題
10	自動車や工場などによる大気汚染
11	家庭や工場による河川などの水質汚濁
12	自動車や鉄道、工場などからの騒音、振動
13	工場などによる悪臭
14	PM2.5、ダイオキシンや環境ホルモンなどの化学物質による環境汚染
15	ごみやリサイクルの問題
16	様々な開発に伴う自然破壊、身近な自然の減少
17	学校や地域社会における環境教育
18	2050年カーボンニュートラルの実現
19	取り組む必要性はない

図 2-31 アンケート内容【問1】

表 2-37 集計結果【問 1】

設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	総回答数	有効回答数
	地球温暖化	オゾン層の破壊	世界的な森林の減少	世界で起きている砂漠化の進行	大気汚染物質による酸性雨	野生生物や希少な動植物の減少や絶滅	海洋および沿岸域の汚染	再生可能エネルギーの利用問題	里山の重要性和管理上の問題	自動車や工場などによる大気汚染	家庭や工場による河川などの水質汚濁	自動車や鉄道、工場などからの騒音、振動	工場などによる悪臭	PM2.5、ダイオキシンなどの化学物質による環境汚染	ごみやリサイクルの問題	様々な開発に伴う自然破壊、身近な自然の減少	学校や地域社会における環境教育	2050年カーボンニュートラルの実現	取り組む必要性はない		
回答数(件)	40	8	10	2	1	3	9	16	3	1	8	3	2	6	33	2	15	8	1	171	72
回答率(%)	55.6	11.1	13.9	2.8	1.4	4.2	12.5	22.2	4.2	1.4	11.1	4.2	2.8	8.3	45.8	2.8	20.8	11.1	1.4	-	-

(2) 問2 持続可能な開発目標について

問2のアンケート内容を図2-32に、集計結果を表2-38に示す。

問2は、持続可能な開発目標（SDGs）に対する認識・取り組みについて、5項目から1つ選択する問いである。

最も回答が多かったのは「どちらともいえない」で29.2%であり、最も回答が少なかったのは「積極的に取り組んでいる」で4.2%であった。

問2. 持続可能な開発目標（SDGs）について	
貴事業所では、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すための国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）」について、どの程度積極的に取り組んでいますか。次の中から、あてはまるものを <u>1つだけ</u> 選んで番号に○印をつけてください。	
1	積極的に取り組んでいる
2	取り組んでいる
3	どちらともいえない
4	あまり取り組んでいない
5	わからない

図2-32 アンケート内容【問2】

表2-38 集計結果【問2】

設問	1 積極的に 取り組ん でいる	2 取 り 組 ん で い る	3 ど ち ら と も い え な い	4 あ ま り 取 り 組 ん で い な い	5 わ か ら な い	総 回 答 数	有 効 回 答 数
回答数(件)	3	14	21	19	10	67	72
回答率(%)	4.2	19.4	29.2	26.4	13.9	-	-

(3) 問3 環境に配慮した日々の行動について

問3のアンケート内容を図2-33に、集計結果を表2-39に示す。

問3は、日常業務の中で環境のためにどのような活動を実施しているかについて14項目を対象に5段階（A:いつも実行している、B:時々実行している、C:今後実行したい、D:今後とも実行するつもりはない、E:該当しない）で評価する問いである。

「いつも実行している」の回答が最も多かったのは、「事業所のごみは事業ごみとして適正に処理している」で68.1%であり、「今後ともするつもりはない」の回答が最も多かったのは「屋上や敷地の緑化をしている」で9.7%であった。

問3. 環境に配慮した日々の行動について						
貴事業所において、日常業務の中で環境のためにどのような活動を実施していますか。次の設問ごと、あてはまるものを1つずつ選んでアルファベットに○印をつけてください。						
質問項目	いつも実行している	時々実行している	今後実行したい	今後とも実行するつもりはない	該当しない	
1	unnecessary電気を消したり、緑のカーテン※を設置したり、冷暖房の温度を控えめにするなど、エネルギーの節約に心がけている	A	B	C	D	E
2.	屋上や敷地の緑化をしている	A	B	C	D	E
3	クールビズ・ウォームビズを実施している	A	B	C	D	E
4	OA機器を省エネモードにしている	A	B	C	D	E
5	両面コピー・2UPなど用紙使用量の削減に努めている	A	B	C	D	E
6	再生紙などのリサイクル商品を購入している	A	B	C	D	E
7	マイバックや梱包簡素化などゴミ減量化に努めている	A	B	C	D	E
8	使用済み製品や容器の回収などリサイクルをしている	A	B	C	D	E
9	低公害車・低燃費車を導入している	A	B	C	D	E
10	エコドライブを意識している	A	B	C	D	E
11	輸配送時には効率的なルート利用に努めている	A	B	C	D	E
12	事業所のごみは事業ごみとして適正に処理している	A	B	C	D	E
13	有害物質を使用したときは適正に処理している	A	B	C	D	E
14	騒音やにおいが発生するときは適正に対処・処理している	A	B	C	D	E

※緑のカーテン：ツル植物などで窓などを覆う、遮光のための簡易な遮蔽物

図2-33 アンケート内容【問3】

表 2-39 集計結果【問3】

番号	設問	A	B	C	D	E	計
		いつも実行している	時々実行している	今後実行したい	今後もしない	該当しない	
回答数 (件)	1 unnecessary電気を消したり、冷暖房の温度を控えめにするなど、エネルギーの節約に心がけている	35	28	6	1	2	72
	2 屋上や敷地の緑化をしている	10	10	19	7	26	72
	3 クールビズ・ウォームビズを実施している	35	15	5	5	12	72
	4 OA機器を省エネモードにしている	37	19	6	1	9	72
	5 両面コピー・2UPなど用紙使用量の削減に努めている	32	20	7	3	10	72
	6 再生紙などのリサイクル商品を購入している	27	23	11	1	10	72
	7 マイバックや梱包簡素化などゴミ減量化に努めている	39	18	7	0	8	72
	8 使用済み製品や容器の回収などリサイクルをしている	35	17	9	3	8	72
	9 低公害車・低燃費車を導入している	21	12	18	2	19	72
	10 エコドライブを意識している	35	18	7	0	12	72
	11 輸配送時には効率的なルート利用に努めている	24	13	9	2	24	72
	12 事業所のごみは事業ごみとして適正に処理している	49	7	5	2	9	72
	13 有害物質を使用したときは適正に処理している	40	5	3	1	23	72
	14 騒音やにおいが発生するときは適正に対処・処理している	41	7	5	2	17	72
回答率 (%)	1 unnecessary電気を消したり、冷暖房の温度を控えめにするなど、エネルギーの節約に心がけている	48.6	38.9	8.3	1.4	2.8	100.0
	2 屋上や敷地の緑化をしている	13.9	13.9	26.4	9.7	36.1	100.0
	3 クールビズ・ウォームビズを実施している	48.6	20.8	6.9	6.9	16.7	100.0
	4 OA機器を省エネモードにしている	51.4	26.4	8.3	1.4	12.5	100.0
	5 両面コピー・2UPなど用紙使用量の削減に努めている	44.4	27.8	9.7	4.2	13.9	100.0
	6 再生紙などのリサイクル商品を購入している	37.5	31.9	15.3	1.4	13.9	100.0
	7 マイバックや梱包簡素化などゴミ減量化に努めている	54.2	25.0	9.7	0.0	11.1	100.0
	8 使用済み製品や容器の回収などリサイクルをしている	48.6	23.6	12.5	4.2	11.1	100.0
	9 低公害車・低燃費車を導入している	29.2	16.7	25.0	2.8	26.4	100.0
	10 エコドライブを意識している	48.6	25.0	9.7	0.0	16.7	100.0
	11 輸配送時には効率的なルート利用に努めている	33.3	18.1	12.5	2.8	33.3	100.0
	12 事業所のごみは事業ごみとして適正に処理している	68.1	9.7	6.9	2.8	12.5	100.0
	13 有害物質を使用したときは適正に処理している	55.6	6.9	4.2	1.4	31.9	100.0
	14 騒音やにおいが発生するときは適正に対処・処理している	56.9	9.7	6.9	2.8	23.6	100.0

(4) 問 4 廃棄物排出量について

問 4 のアンケート内容を図 2-34 に、集計結果を表 2-40 に示す。

問 4 は、事業系一般廃棄物の排出量をどのように把握しているかについて、4 項目から 1 つ選択する問いである。

「その他」を除き、最も回答が多かったのは「把握していない」で 43.1%であり、最も回答が少なかったのは「自己計量」で 9.7%であった。

問 4. 廃棄物排出量の把握について	
貴事業所において、事業系一般廃棄物の排出量をどのように把握していますか。次の中から、あてはまるものを <u>1つだけ</u> 選んで番号に○印をつけてください。	
1	自己計量
2	委託業者（収集運搬や処分）からの報告
3	把握していない
4	その他（ ）

図 2-34 アンケート内容【問 4】

表 2-40 集計結果【問 4】

設問	1	2	3	4	総回答数	有効回答数
	自己計量	委託業者（収集運搬や処分）からの報告	把握していない	その他		
回答数(件)	7	31	25	5	68	72
回答率(%)	9.7	43.1	34.7	6.9	-	-

表 2-41 その他の記述内容【問 4】

記述内容
居宅サービスなので事業のゴミでない

(5) 問 5 廃棄物排出量の変化について

問 5 のアンケート内容を図 2-35 に、集計結果を表 2-42 に示す。

問 5 は、過去 3 箇年（平成 30 年～令和 2 年）と比べて令和 3 年の事業系一般廃棄物の排出量
が変化したかどうかについて、4 項目から 1 つ選択する問いである。

最も回答が多かったのは「**変わっていない** 又は **変わっていないと感じる**」で 45.8% であり、
最も回答が少なかったのは「**増えた** 又は **増えたと感じる**」で 6.9% であった。

問5. 廃棄物排出量の変化について	
貴事業所では、過去3箇年（平成30～令和2年）と比べて令和3年の事業系一般廃棄物の排出量は変化しましたか。次の中から、あてはまるものを <u>1つだけ</u> 選んで番号に○印をつけてください。	
1	増えた 又は 増えたと感じる
2	減った 又は 減ったと感じる
3	変わっていない 又は 変わっていないと感じる
4	わからない

図 2-35 アンケート内容【問 5】

表 2-42 集計結果【問 5】

設問	1	2	3	4	総 回 答 数	有 効 回 答 数
	増 え え た た と 感 じ は る	減 つ つ た た と 感 じ は る	変 わ わ つ つ て て い い な い と 感 じ は る	わ か ら な い		
回答数(件)	8	18	33	10	71	72
回答率(%)	11.1	25.0	45.8	13.9	-	-

(6) 問 6 廃棄物排出に関する計画管理体制について

問 6 のアンケート内容を図 2-36 に、集計結果を表 2-43 に示す。

問 6 は、廃棄物に関する計画管理体制について、5 項目から複数選択する問いである。

「その他」及び「特に体制は作っていない」を除き、最も回答が多かったのは「廃棄物に関する規制・ルールを定めている」で 19.4% であり、最も回答が少なかったのは「廃棄物の減量計画を作成している」で 2.8% であった。

問6. 廃棄物排出に関する計画管理体制について	
貴事業所での廃棄物に関する管理計画体制について、次の中からあてはまるものをすべて選んで番号に○印をつけてください。	
1	廃棄物の管理責任者を設置している
2	廃棄物の減量計画を作成している
3	廃棄物に関する規則・ルール等を定めている
4	その他（ ）
5	特に体制は作っていない

図 2-36 アンケート内容【問 6】

表 2-43 集計結果【問 6】

設問	1	2	3	4	5	総回答数	有効回答数
	設置し ての管 理責 任者 を	作 成 し て の 減 量 計 画 を	ル ー ル 等 に 関 する 規 則 を 定 め て い る	そ の 他 （ ）	特 に 体 制 は 作 っ て い な い		
回答数(件)	11	2	14	0	46	73	72
回答率(%)	15.3	2.8	19.4	0.0	63.9	-	-

(7) 問7 地域環境のための取り組みについて

問7のアンケート内容を図2-37に、集計結果を表2-44に示す。

問7は、地域社会の一員として、地域環境のためにどのような取り組みをしているかについて、10項目から複数選択する問いである。

「その他」を除き、最も回答が多かったのは「事務所周辺の清掃活動」で50.0%であり、最も回答が少なかったのは「近隣地域への環境情報提供」、「生物多様性の保全活動（特定外来生物の駆除など）」で2.8%であった。

問7. 地域環境のための取り組みについて	
貴事業所において、地域社会の一員として、地域環境のためにどのような取り組みをしていますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで番号に○印をつけてください。	
1	環境に関する社会貢献的事業（環境イベント、植樹など）を主催している。
2	事務所周辺の清掃活動
3	地域の清掃、美化、緑化活動などへの参加・協力
4	地域の環境イベントなどへの参加・協力
5	従業員の環境に関するボランティア活動支援
6	環境保全団体への支援や寄付
7	近隣地域への環境情報提供
8	生物多様性の保全活動（特定外来生物の駆除など）
9	特に取り組んでいない
10	その他（ ）

図2-37 アンケート内容【問7】

表2-44 集計結果【問7】

設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	総回答数	有効回答数
	環境に関する社会貢献的事業（環境イベント、植樹など）を主催している。	事務所周辺の清掃活動	地域の清掃、美化、緑化活動などへの参加・協力	地域の環境イベントなどへの参加・協力	従業員の環境に関するボランティア活動支援	環境保全団体への支援や寄付	近隣地域への環境情報提供	生物多様性の保全活動（特定外来生物の駆除など）	特に取り組んでいない	その他（ ）		
回答数(件)	3	36	15	4	3	3	2	2	28	0	96	72
回答率(%)	4.2	50.0	20.8	5.6	4.2	4.2	2.8	2.8	38.9	0.0	-	-

(8) 問 8 地域の環境活動に取り組むことで得られた効果について

問 8 のアンケート内容を図 2-38 に、集計結果を表 2-45 に示す。

問 8 は、地域の環境活動に取り組むことで得られた効果について、7 項目から複数選択する問いである。

「その他」を除き、最も回答が多かったのは「従業員の環境意識の向上」で 37.5%であり、最も回答が少なかったのは「提供している製品・サービスの売上向上」で 4.2%であった。

問 8. 地域の環境活動に取り組むことで得られた効果について	
貴事業所において、地域の環境活動に取り組むことで得られた効果は何ですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで番号に○印をつけてください。	
1	企業イメージ・信用性の向上
2	業務効率化によるコスト削減
3	提供している製品・サービスの品質向上
4	提供している製品・サービスの売上向上
5	従業員の環境意識の向上
6	特に効果はない
7	その他 ()

図 2-38 アンケート内容【問 8】

表 2-45 集計結果【問 8】

設問	1	2	3	4	5	6	7	総回答数	有効回答数
	向企業イメージ・信用性の	コスト効率化による	提供している製品の品質向上	提供している製品の売上向上	従業員の環境意識の向上	特に効果はない	その他		
回答数(件)	13	7	4	3	27	26	4	84	72
回答率(%)	18.1	9.7	5.6	4.2	37.5	36.1	5.6	-	-

表 2-46 その他の記述内容【問 8】

記述内容
取り組みをしていない。

(9) 問9 環境活動を行うにあたっての課題について

問9のアンケート内容を図2-39に、集計結果を表2-47に示す。

問9は、環境活動を行うにあたりどのような課題があるかについて、9項目から複数選択する問いである。

「その他」を除き、最も回答が多かったのは「情報不足」で38.9%であり、最も回答が少なかったのは「事務所内の協力が得られない」、「取引先や消費者の協力が得られない」で1.4%であった。

問9. 環境活動を行うにあたっての課題について	
貴事業所において、環境活動を行うにあたりどのようなことが課題であるとお考えですか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで番号に○印をつけてください。	
1	資金不足
2	人材不足
3	ノウハウ不足や技術的に困難
4	情報不足
5	事務所内の協力が得られない
6	取引先や消費者の協力が得られない
7	自社所有の建物ではないため、設備の設置等が行えない
8	特にない
9	その他（ ）

図2-39 アンケート内容【問9】

表2-47 集計結果【問9】

設問	1 資金不足	2 人材不足	3 技術的 ノウハウ 不足や 困難	4 情報 不足	5 事務所 内の 協力が 得られ ない	6 取引先 や消費 者の 協力が 得られ ない	7 自社 所有の 建物 でない ため 設備の 設置 等 が 行 え な い	8 特 に な い	9 そ の 他 ()	総 回 答 数	有 効 回 答 数
回答数(件)	23	27	26	28	1	1	8	19	1	134	72
回答率(%)	31.9	37.5	36.1	38.9	1.4	1.4	11.1	26.4	1.4	-	-

表2-48 その他の記述内容【問9】

記述内容
効率が落ちるので、業務改善につながらない

(10) 問 10 事業所における今後の環境活動について

問 10 のアンケート内容を図 2-40 に、集計結果を表 2-49 に示す。

問 10 は、今後の環境活動をどのように行うかについて、5 項目から 1 つ選択する問いである。

「その他」を除き、最も回答が多かったのは「機会があれば取り組みたい」で 70.8%であり、最も回答が少なかったのは「取り組むつもりはない」で 1.4%であった。

問 10. 事業所における今後の環境活動について	
貴事業所において、今後の環境活動をどのように行うことをお考えですか。次の中から、あてはまるものを <u>1 つだけ</u> 選んで番号に○印をつけてください。	
1	積極的に環境活動に取り組んでいく
2	機会があれば取り組みたい
3	取り組むつもりはない
4	不明
5	その他 ()

図 2-40 アンケート内容【問 10】

表 2-49 集計結果【問 10】

設問	1	2	3	4	5	総回答数	有効回答数
	取 積 り 極 組 的 ん に で 環 い 境 く 活 動 に	取 機 り 会 組 が み あ た れ い ば	取 り 組 む つ も り は な い	不 明	そ の 他 ()		
回答数(件)	7	51	1	8	1	68	72
回答率(%)	9.7	70.8	1.4	11.1	1.4	-	-

(11) 問 11 環境保全に関する従業員教育について

問 11 のアンケート内容を図 2-41 に、集計結果を表 2-50 に示す。

問 11 は、に環境保全に関する従業員教育の実施状況について、7 項目から 1 つ選択する問いである。

「その他」を除き、最も回答が多かったのは「特に研修は行っていないが、日常的に呼びかけている」で 31.9% であり、最も回答が少なかったのは「専門の教育制度を設け、教育している。」で 2.8% であった。

問 11. 環境保全に関する従業員教育について	
貴事業所における環境保全に関する従業員教育の実施状況としてあてはまるものはどれですか。次の中から、 <u>1つだけ</u> 選んで番号に○印をつけてください。	
1	専門の教育制度を設け、教育している。
2	専門の教育制度はないが、従業員研修の中で呼びかけている。
3	特に研修は行っていないが、日常的に呼びかけている。
4	特に研修や呼びかけは行っていない。
5	従業員研修の対象とは考えていない。
6	当事業所の事業内容は環境保全と関連がなく、従業員教育の必要がない。
7	その他 ()

図 2-41 アンケート内容【問 11】

表 2-50 集計結果【問 11】

設問	1	2	3	4	5	6	7	総回答数	有効回答数
	専門の教育制度を設け、教育している。	専門の呼びかけ制度はないが、従業員研修の	特に研修は行っていないが、日常的に呼	特に研修や呼びかけは行っていない。	従業員研修の対象とは考えていない。	なく、事業所の事業内容は環境保全と関連が	その他 ()		
回答数(件)	2	4	23	21	6	10	2	68	72
回答率(%)	2.8	5.6	31.9	29.2	8.3	13.9	2.8	-	-

(12) 問 12 環境保全の促進に対する行政への要望について

問 12 のアンケート内容を図 2-42 に、集計結果を表 2-51 に示す。

問 12 は、環境保全に取り組むにあたって行政にどのようなことを望むかについて、9 項目から複数選択する問いである。

「その他」、を除き、最も回答が多かったのは「環境に関する情報提供（広報紙やホームページなど）」で 41.7%であり、最も回答が少なかったのは「事務所間での情報交換や連携の場の提供」で 5.6%であった。

問 12. 環境保全の推進に対する行政への要望について	
貴事業所において、環境保全に取り組むにあたって行政にどのようなことを望みますか。次の中から、あてはまるものをすべて選んで番号に○印をつけてください。	
1	環境に関する情報提供（広報紙やホームページなど）
2	環境活動をPRする場の提供
3	事務所間での情報交換や連携の場の提供
4	住民・住民団体・事業者・行政の連携・協力による環境活動の推進の場の整備
5	環境配慮設備への補助金などの財政的支援
6	町施設などへの環境配慮設備の率先的導入
7	事業所が行うべき環境配慮指針（ガイドライン）の作成
8	特にない
9	その他（ ）

図 2-42 アンケート内容【問 12】

表 2-51 集計結果【問 12】

設問	1 （環境に関する情報提供 （広報紙やホームページなど）	2 環境活動をPRする場の提供	3 事務所間での情報交換や連携の場の提供	4 住民・住民団体・協力による環境活動の推進の場の整備	5 環境配慮設備への補助金などの財政的支援	6 町施設などへの環境配慮設備の率先的導入	7 （事業所が行うべき環境配慮指針	8 特にない	9 その他（ ）	総回答数	有効回答数
回答数(件)	30	9	4	18	18	10	19	11	0	119	72
回答率(%)	41.7	12.5	5.6	25.0	25.0	13.9	26.4	15.3	0.0	-	-

(13) 環境に関する情報収集の方法について

問 13 のアンケート内容を図 2-43 に、集計結果を表 2-52 に示す。

問 13 は、環境に関する情報を取得しやすい主な媒体や手法を 10 項目から 2 つまで選択する問いである。

「その他（具体的に：）」を除き、最も回答が多かったのは「**広報紙**」で 40.3% であり、最も回答が少なかったのは「**環境イベント**」で 4.2% であった。

問 13. 環境に関する情報収集の方法について	
環境に関する情報を取得しやすい主な媒体や手法はどれですか。次の中から、 <u>2つまで</u> 選んで番号に○印をつけてください。	
1	広報紙
2	環境啓発パンフレット
3	環境イベント
4	東郷町ホームページ
5	町以外のホームページ（環境省や愛知県、環境団体など）
6	事業所向けの説明会や講演会
7	SNS
8	テレビ、ラジオ
9	新聞、業界新聞、業界雑誌
10	その他（具体的に： ）

図 2-43 アンケート内容【問 13】

表 2-52 集計結果【問 13】

設問	1 広 報 紙	2 環 境 啓 発 パ ン フ レ ッ ト	3 環 境 イ ベ ン ト	4 東 郷 町 ホ ー ム ペ ー ジ	5 （ 町 以 外 の ホ ー ム ペ ー ジ （ 環 境 省 や 愛 知 県 、 環 境 団 体 な ど ）	6 事 業 所 向 け の 説 明 会 や 講 演 会	7 S N S	8 テ レ ビ 、 ラ ジ オ	9 新 聞 、 業 界 新 聞 、 業 界 雑 誌	10 そ の 他 （ 具 体 的 に ： ）	総 回 答 数	有 効 回 答 数
回答数(件)	29	14	3	18	4	6	15	11	15	1	116	72
回答率(%)	40.3	19.4	4.2	25.0	5.6	8.3	20.8	15.3	20.8	1.4	-	-

(14) 問 14 コロナ禍における事業活動様式の変化について

a) 問 14-1 コロナ禍での事業活動様式の変化について

問 14-1 のアンケート内容を図 2-44 に、集計結果を表 2-53 に示す。

問 14-1 は、コロナ禍での事業活動様式の変化について、9 項目を対象に 5 段階(あてはまる、ややあてはまる、あまりあてはまらない、あてはまらない、どちらともいえない) で評価する問いである。

「あてはまる」の回答が最も多かったのは、「営業時間の短縮を行った」、「Web 会議をするようになった」で 23.8%であった。「あてはまらない」の回答が最も多かったのは、「時差出勤をするようになった」で 74.2%であった。

質問項目	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない
1 営業時間の短縮を行った	A	B	C	D	E
2 一時的に休業した	A	B	C	D	E
3 テレワークをするようになった	A	B	C	D	E
4 時差出勤をするようになった	A	B	C	D	E
5 Web会議をするようになった	A	B	C	D	E
6 公共交通機関を使用する頻度が減った	A	B	C	D	E
7 事業所のエアコンの稼働時間が減った	A	B	C	D	E
8 事業所ごみの発生量が減った	A	B	C	D	E
9 変化はない	A	B	C	D	E

図 2-44 アンケート内容【問 14-1】

表 2-53 集計結果【問 14-1】

番号	項目	A	B	C	D	E	計
		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	
回答数 (件)	1 営業時間の短縮を行なった	15	10	7	30	1	63
	2 一時的に休業した	12	5	7	37	0	61
	3 テレワークをするようになった	6	4	7	44	1	62
	4 時差出勤をするようになった	2	7	5	46	2	62
	5 Web会議をするようになった	15	8	5	33	2	63
	6 公共交通機関を使用する頻度が減った	9	8	8	37	2	64
	7 事業所のエアコンの稼働時間が減った	9	10	11	31	1	62
	8 事業所ごみの発生量が減った	8	9	17	23	5	62
	9 変化はない	13	11	9	19	4	56
回答率 (%)	1 営業時間の短縮を行なった	23.8	15.9	11.1	47.6	1.6	100.0
	2 一時的に休業した	19.7	8.2	11.5	60.7	0.0	100.0
	3 テレワークをするようになった	9.7	6.5	11.3	71.0	1.6	100.0
	4 時差出勤をするようになった	3.2	11.3	8.1	74.2	3.2	100.0
	5 Web会議をするようになった	23.8	12.7	7.9	52.4	3.2	100.0
	6 公共交通機関を使用する頻度が減った	14.1	12.5	12.5	57.8	3.1	100.0
	7 事業所のエアコンの稼働時間が減った	14.5	16.1	17.7	50.0	1.6	100.0
	8 事業所ごみの発生量が減った	12.9	14.5	27.4	37.1	8.1	100.0
	9 変化はない	23.2	19.6	16.1	33.9	7.1	100.0

b) 問 14-2 コロナ収束後の事業活動様式の維持意向

問 14-2 のアンケート内容を図 2-45 に、集計結果を表 2-54 に示す。

問 14-2 は、コロナ収束後において、コロナ禍における事業活動様式を維持したいかどうかについて、3 段階（維持したい、一部維持したい、維持したくない）で評価する問いである。

最も回答が多かったのは「維持したい」、「一部維持したい」で 26.4%であった。最も少なかった回答は「維持したくない」で 2.8%であった。

●コロナ収束後の事業活動様式の維持意向	
1	維持したい
2	一部維持したい
3	維持したくない
4	不明

図 2-45 アンケート内容【問 14-2】

表 2-54 集計結果【問 14-2】

	項目	1	2	3	4	総回答数	有効回答数
		維持したい	一部維持したい	維持したくない	不明		
回答数(件)	全体	19	19	2	12	52	72
回答率(%)	全体	26.4	26.4	2.8	16.7	-	-

c) 自由欄

自由欄記述内容を表 2-55 に示す。

表 2-55 自由欄記述内容

記述内容
営業時間短縮は省エネになるので維持したい。
コロナ禍でも売上が下がることなく営業を続けることができたため、このまま維持していきたいと思っています。
建築設備の関係であるのでコロナ禍であまり事業に変化がなかった。
店舗営業は以前と変わらず行いたい、他店とのミーティング等はリモートで行えれば移動の為のガソリンが減らせる。
営業時間の短縮はなかったが、出張はなくなり、web会議にて人の動き、費用の削減にもなったので維持したい。
社会福祉の根幹として少しでも担い手として活動して行きたいと考えます。

a) 業種

業種別割合を、表 2-56 に示す。

業種別の回答者の割合は、製造業が 19.4%で最も多く、次いで医療、福祉が 15.3%で多かった。

表 2-56 アンケート回答者の業種別割合

項目 & 単位	農業 林業	漁業	鉱業、採石業、砂利採取業	建設業	製造業	電気、ガス、熱供給、水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業	不動産業、物品賃貸業	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	複合サービス事業	サービス業	公務	その他（ ）	総回答数	有効回答数
回答数(件)	1	0	0	7	14	0	0	1	8	2	1	4	4	1	1	11	1	7	0	2	65	72
回答率(%)	1.4	0.0	0.0	9.7	19.4	0.0	0.0	1.4	11.1	2.8	1.4	5.6	5.6	1.4	15.3	1.4	9.7	0.0	2.8	-	-	

b) 事業所の主な形態

事業所の主な形態別割合を、表 2-57 に示す。

形態別の回答者の割合は、所有物件（事務所独立）が 44.4%で最も多く、賃貸、テナントが 22.2%で最も少なかった。

表 2-57 アンケート回答者の事業所の主な形態別割合

項目 & 単位	（事務所独立） 所有物件	（自宅と兼用） 所有物件	賃貸、テナント	総回答数	有効回答数
回答数(件)	32	17	16	65	72
回答率(%)	44.4	23.6	22.2	-	-

c) 従業員数※パート、臨時含む

従業員数別割合を、表 2-58 に示す。

従業員数別の回答者の割合は、1～4 人が 36.1%で最も多く、次いで5～9 人が 20.8%が多かった。

表 2-58 アンケート回答者の従業員数別割合

項目 & 単位	1 ～ 4 人	5 ～ 9 人	10 ～ 19 人	20 ～ 29 人	30 ～ 39 人	40 ～ 49 人	50 ～ 59 人	総 回 答 数	有効 回 答 数
回答数(件)	26	15	8	6	6	3	1	65	72
回答率(%)	36.1	20.8	11.1	8.3	8.3	4.2	1.4	-	-

d) 東郷町在所年数

アンケート回答者の東郷町在所年数別割合を、表 2-59 に示す。

回答者の東郷町在所年数は、30 年以上が 43.1%で最も多く、次いで10～19 年が 22.2%が多かった。また、3 年未満が 2.1%で最も少なかった。

表 2-59 アンケート回答者の在所年数別割合

項目 & 単位	3 年 未 満	3 年 ～ 5 年	6 年 ～ 9 年	10 年 ～ 19 年	20 年 ～ 29 年	30 年 以 上	総 回 答 数	有効 回 答 数
回答数(件)	2	3	4	16	8	31	64	72
回答割(%)	2.8	4.2	5.6	22.2	11.1	43.1	-	-

e) 所在地

アンケート回答者の所在地別割合を表 2-60 に示す。

所在地別回答率では、諸輪が 20.8%で最も多く、次いで和合が 11.1%で多かった。また、諸輪住宅、押草団地北、押草団地南、西白土が 0%で最も少なかった。

表 2-60 アンケート回答者の所在地

項目 & 単位	諸輪	和合	傍示本	祐福寺	部田	白土	和合ヶ丘	諸輪住宅	白鳥	御岳
回答数(件)	15	8	5	7	3	3	1	0	5	2
回答率(%)	20.8	11.1	6.9	9.7	4.2	4.2	1.4	0.0	6.9	2.8
項目 & 単位	春木台	北山台	押草団地北	押草団地南	西白土	清水	兵庫	三ツ池	総回答数	有効回答数
回答数(件)	6	4	0	0	0	3	1	1	64	72
回答率(%)	8.3	5.6	0.0	0.0	0.0	4.2	1.4	1.4	-	-